

千葉日報社長賞

香川県／48歳／女性／会社員

きらら様

✉手紙の相手：父

お互いにわかり合えないままのお別れになりましたね。もしもあなたのことを理解することができていたなら。そう思うと悔やまれてなりません。今でもあなたのことを理解する翻訳機があったなら、と思うほどです。

長い間、あなたの「ことば」を理解できず私は傷つくばかりでした。時代も生まれ育った環境も違う私たち。私なりに距離を縮めようと努めました。力が及びませんでした。もう一度言います。もしもあなたのことをの真意を知れる翻訳機があったなら、私たちは信頼し合える親子になれたでしょう。

あなたの口から出る「お前のせいでチームは負けたんだ」「お前ならもつとできるはずだ」「そこに置いておけ」「は」「ありがとう」。すべての言葉をそんな風に翻訳できたなら、私たちの関係性は変わっていたでしょう。

俺は町で一番の貧乏だった、が口癖でした。貧しさから脱出す

るため、中学を卒業すると仕事一筋の人生を送りましたね。目を閉じて浮かんでくるのは大きな石を叩き割る姿でした。機械化もIT化も受け入れず、一生手作業、肉体労働を貫き、昔ながらの石工のやり方を全うしましたね。

「これくらいのことでは満足するな」。「泣くなら勝って泣け」。

あなたの写真を見ていると今でもそう言われている気分になります。

先日あなたの部屋で一枚の新聞記事の切り抜きを見つけました。私が高校時代に英語の弁論大会で準優勝したときのものです。記事のそばには荒い字で「ホントはムスメが日本イチ」と書かれています。

翻訳のいらぬ初めて聞いたあなたのまっすぐな声でした。

そのことを胸に抱いてこれから私は生きていくでしょう。それで十分。その一言で十分。ありがとう、おとうさん。

✉手紙への想い✉

かつこう悪くてもいい。正直な気持ちで書きました。自分の心の中にある様々な思いを素直につづりました。